



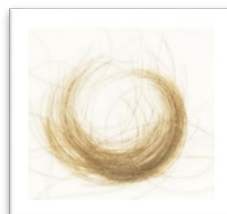
★『関西学院史紀要』第 28 号の発行

3月15日に『関西学院史紀要』第28号を発行しました。6号以降は「関西学院大学リポジトリ」に登録されています。印刷物をご希望の場合は学院史編纂室までご連絡ください(創刊号、2号、12号、13号、15号、24号は在庫なし)。

〔論 文〕	関西学院におけるアウトターブリッチ宣教師 関西学院〔高等学部文科英文学科・文学部英文学科〕の英語教育と研究 —竹友藻風、志賀勝、曾根保、岩橋武夫、寿岳文章を育てた人びと— (上) 賀川豊彦と関西学院	神田健次 井上琢智 李 善恵
〔資 料〕	神崎驥一日記(2) 岩橋武夫の卒業論文「ミルトンのソネット研究」(1) 関西学院の思い出 H. W. アウターブリッチ	井上琢智 室田保夫 (翻訳) 村瀬義史
〔寄 稿〕	私の社会学部長、学長時代 ～国際交流とアメリカンフットボール～	武田 建

★W. R. ランバスの遺髪の贈呈

2021年12月26日午後2時より、啓明学院J. W. & M. I. ランバスチャペルで「パルモア学院創立135周年・法人解散記念礼拝」が行われ、関西学院創立者W. R. ランバスの遺髪が関西学院の舟木 讓 院長から啓明学院の辻 学院長代理に贈呈されました。これは、閉校が決まったパルモア学院から舟木院長の元に届けられた箱の中に書類や写真と共に入られていたものです。1888年にパルモア学院で開始された昼間の授業が関西学院普通学部の始まり、1923年にパルモア学院に創設された女子部が啓明学院の始まりと考えられることから、貴重な遺髪を両校で分けて保管することを当室から提案しました。記念礼拝の様子は、8頁をご覧ください。

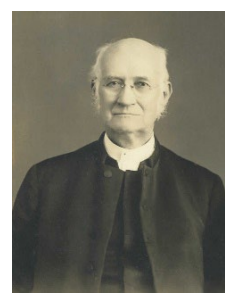


★小冊子『関西学院のエスプリ』の発行



『関西学院のエスプリ：J. C. C. ニュートン』(右)と『関西学院のエスプリ：C. J. L. ベーツ』(左)を作成しました。広報誌等に掲載された短文の中から、それぞれにまつわる原稿を集め、写真や情報を追加し、小冊子にまとめたものです。いずれも、時計台(西宮上ヶ原キャンパス)で配布しています。

昨年はニュートン第3代院長没後90年でしたが、今年はベーツ第4代院長来日120年です。これを機に、関西学院の基礎を築いた二人の院長のことを考えてみませんか？



★神戸市立小磯記念美術館開館30年特別展「竹中郁と小磯良平 詩人と画家の^{メモリアル}回想録」の開催

10月8日から12月18日まで(月曜休館、祝日の場合は開館し、直近の平日を休館)、神戸市立小磯記念美術館で標記特別展が開催されます(主催：神戸市立小磯記念美術館、朝日新聞社)。竹中が本学同窓であることから、学院史編纂室も情報提供等で協力しています。

「神戸の詩人さん」と呼ばれた竹中郁(1904～82)は、1927年に文学部を卒業しました。「一生を詩のために費やしたい」との言葉が『卒業アルバム』に残されています【写真：文学部アルバム委員、竹中は左から2人目】。



生涯の友、小磯良平とは、兵庫県立神戸第二中学校(現・兵庫高校)時代に出会いました。小磯の東京美術学校の卒業制作は、竹中をモデルにしたものでした。小磯は、神崎驥第5代院長の肖像画も描いています(学院史編纂室所蔵)。

なお、神戸文学館(関西学院創設の地に残る旧ランチ・メモリアル・チャペル)には「竹中郁コーナー」が設けられています。